

NPO法人ぴーす

平成18年度活動報告書

障がい児者の家庭支援する

ぴーす

== 目次 =====

1ページ	年間の参加者数、及び活動数、会員数
2～3ページ	年間の活動報告＝月日別に活動した内容を記載
4ページ	事業別報告 ■余暇活動■ 1：おもちゃ図書館ぽっぽ
5ページ	2：外出グループぴっぴ
6ページ	3：音楽サークルドロップス
7ページ	4：水曜クラブぷらっしゅ
8～9ページ	5：放課後クラブぱる
10ページ	6：スマイルシックス
	■情報提供■ 1：メールニュースふぁにい
	2：ぴーすのメールマガジン
	3：プリズム通信
11～12ページ	■企画制作■ 1：連続勉強会
13ページ	2：小さなセミナー
14ページ	■啓発活動■ 1：発達障がい啓発チームプリズム
15ページ	2：障がい児のための防災を考えるプロジェクト
16ページ	■委託／指定事業■ 1：ぴーすの支援センター
	2：ぴーすのヘルパーステーション
17ページ	その他／メディア掲載、講師派遣報告

平成17年9月にNPO法人となりましたぴーす、2年目の年度が終わりました。
学齢期障害児の子育て真っ最中の母達が集まり、にぎやかに&アクティブに、走りに走った2年目の活動。
普段は我が子の子育てに悩みつつ、まるでそのストレスをぴーすの活動で発散するかのよう、
「我が子が学校等にいる時間は無駄にしない!」とばかり、どっぷりはまって活動していたように思います。
その分、活動の幅も一年目に比べ広くなり、内容も深く濃くなりました。

そこで、平素、当法人を応援／ご支援／ご指導いただいております皆様へ、18年度の活動報告を提出させていただきます。

どの活動も、我らスタッフの思いがたっぷりこもっているもので、報告書も大変分量の多いものになっておりますが、ご一読のうえ、今後も更なるご支援ご鞭撻いただけると幸いです。

お読みになった感想やご意見などなどもいただけるととてもありがたいです。

「福祉」というものを全く知らず、ただ「障害児の母である」ことだけを取り柄として、
日々「自分達に必要なものは何か?」を自問自答しながら、スタッフ一同微力をかき集めての活動、
危なっかしいところばかりですが、今後も暖かい応援をいただけますよう、よろしく願いいたします。

平成19年5月

NPO法人ぴーす 理事長 小田多佳子

びーすは、障がい児の余暇活動をさまざまな形で支援や運営をしています。平成18年度に支援及び運営をしたグループの、個別報告は以下の通りです。

1:おもちゃ図書館ぽっぽ

たくさんのおもちゃが揃っている中で、障がい児とその兄弟が気兼ねなく自由にのびのび遊べる場所の提供をしているグループです。同時におもちゃの無料貸出もしています。活動暦は9年目となりましたが、9年間変わらず月に一回（第4土曜日 11:00~16:00）の定期開催をしています。対象は0～10歳程度の障がい児とその家族で、会場は堺市総合福祉会館プレイルームです。

平成18年度は

開催回数：10回（9・10月は福祉会館が閉館で実施できず）

参加者：85～114名（月平均100名）年延べ数1,000名

おもちゃ貸出数：6～27点（月平均16点）年延べ件数154件

その他の活動

活動	内容	回数	参加者数
機関紙よっTOYで!	編集会議・印刷	年12回（月1回）	延べ 50名
クリーニング	おもちゃの清掃	年10回 （8・2月を除く毎月）	延べ 50名
定例スタッフ会議	運営などについて	年12回（月1回）	延べ 96名
総会		年1回	15名
アウトドア	スタッフ慰安会	年1回	31名
イベント	3月開館（腹話術）	年1回	(104名)
合計			242名

開館日・その他の活動の延べ総数

1,242名

★活動の様子

幼児を中心にその兄弟、父母、ボランティアが、毎回100名ほど入れ替わりで遊びました。

ある月の様子。

寄贈のおもちゃを新しく出しました。さすが子どもたち、新しいものには目がありません。たくさん出したおもちゃに次々と集まり、「ひとりであそびた〜い!」と、少々トラブルになりそうになりながら、人気のおもちゃには、常に群がっているという状態でした。貸し出しも次々とありました。その中のひとつ、「ドラム式洗濯機」。最新型でとっても優れもの!ふたを開けて“洗う”ボタンを押すと、本物そっくりのお水の音が「チョロチョロ〜、ジャー〜」。透明のドアからは、中の洗濯物がクルクル回るのが見え、お水や洗剤の泡まで再現。Aちゃんが入っていた洗濯物を

ふんわりできあがり〜。お母さんやボランティアさんは「うちにもこんなのが欲しい!」

午後からはプレイルーム内が人の多さで熱気ムンムンでした。そんな中でも子どもたちはお構いなしで所狭しと走り回りったり、狭いテントの中に4～5人がだんご状態になってかくれんぼをしたりと、楽しく元気に遊んでくれました。一方お母さん達は、互いに近況報告したり、悩み共感したりで、おしゃべりに花が咲いていたようでした。



ぽっぽは、びーす会員以外でも誰でも参加可能なグループです。

小学4年生以上の障がい児の、グループ外出の支援です。お母さんから離れて、お友達と外出！グループは、年齢や障がい程度に合わせて構成。現在は重度知的障がいの中学生チームと 軽度知的障がいの小学生チームの2グループ。月1回、土曜日に活動をしています。

平成18年度は

★重度知的障害児中学生グループ

実施回数：10回（年間延べ参加数30名）

行き場所：浜寺公園、カラオケBOX、ダイヤモンドシティ、長居公園、大浜公園、キッズプラザなど

★軽度知的障害児小学生グループ

実施回数：11回（年間延べ参加数51名）

行き場所：海遊館、大阪科学技術館、天王寺動物園、インスタントラーメン発明記念館など

★活動の様子

重度知的障害児中学生グループの様子

毎月第4土曜日に、福祉会館を拠点に活動していましたが、18年度後半から、自宅からそれぞれヘルパーさんと出かけ、お友達と待ち合わせをして遊びに行くという内容に変わりました。現在メンバーは3名。全員中学生ということもあり、今までは公園に遊びに行くことが多かったのですが、年度末に近づくにつれて難波などおしゃれな場所にも出かけるという中学生らしい活動になっています。

難波へ行った月の様子。改札を出たところでみんな合流。「何食べる？」とウロウロ。Hさんは目を輝かせてお店をよく見ました。Mさんの母の予想は「マクド」でしたが、リクエストは「そば」。みんなの意見が一致し「そば屋」へ。さすが中学生！しぶいです。昼食後電車に乗って本町の大阪科学技術館へ。館内ではそれぞれ自由行動。ボタンを押すとライトがつく展示を楽しんだり、時々踊りを披露したりしながら楽しみました。

軽度知的障害児小学生グループの様子

このグループは毎回リーダー役を交代、リーダーは行き先を決定し、一週間前にはメンバーに連絡します。さてある月のこと、天候はあいにくの雨・・・、リーダーの予定では浜寺公園だったのですが、急きょ変更。雨なら「交通科学博物館」の予定だったけど、前にも行ったことがあるので、リーダーが当日急にもう1つの行き先「下水道科学館」を提案しました。参加した4名のうち3名は、提案を「OK!」と賛成。問題は残りの1名、Tくん。彼は前もって決まっている行き先などの変更が、とても苦手。人の意見に合わせるのも苦手。彼の予定は「雨だったら、交通科学博物館」みんなに合わせる変更はできないよ〜と、母は心配しつつ見守りました。

スタッフがTくん、交通科学館と下水道科学館のパンフレット2つ並べて、「3人は下水道科学館に行きたいんだって。Tくんはどうする？」と聞きました。

Tくん、即答「行く！」（えっ？うそ!）

もう1度聞いても、「行く！」

4人の母たち、スタッフ一同「すごーい！多数決できた」

Tくんはびっぴ2の活動はとても楽しみにしていて、

3日前から「土曜日はびっぴ2行きます」とモチベーション高い！

この日の「みんなに合わせて行き先変更」も、モチベーションに支えられた

成長の証ですね。11時20分出発17時15分着で、大阪市此花区の

『下水道科学館』に行きいろいろな体感ゲームを楽しみながら、

水のふしぎや下水道の見学をしてきたのでした。



障がい児が集団で音楽を楽しむ支援をしています。年齢や障がい状態にあわせて小さなグループを構成しています。幼児は保護者と一緒に、学齢期はひとりで or ヘルパーさんと一緒に、歌う・聴く・演奏する・踊る など自分を自分らしく楽しみます。現在3グループが月1回、土曜日に活動中です。

平成18年度は

実施回数：10回（年間延べ参加者数83名）

実施場所：ソフィア堺ミュージックルーム

グループ：3グループ

★第1グループ/重度知的障害児中学生グループの様子

子ども達は単独で参加しています。「歌う」は数曲の中から自分で曲を決めみんなで歌います。「楽器」太鼓のリズム打ちとハンドベルでの合奏を練習中です。「聴く」先生のピアノ演奏をじっくり聴いて、最後に「リズム遊び」フラフープを使って音楽にのって動くのを楽しんでいます。

★第2グループ/幼児～小学1年生のグループ（コミュニケーションの困難な児童）

母と一緒に参加しています。各自が自分のスケジュールを用意。前もってすることの見通しをもって、1つ1つこなしています。挨拶はビッグマック（会話補助装置）を使い発語のない子も元気に「こんにちは！」。「歌う」カラオケで流す曲を歌う（主に母達が）、「踊る」は曲ごとに歩いたり、飛んだり、寝転んだり。「楽器」は太鼓と鳴子、「聴く」では先生のピアノを座って静かに聴く練習中です。

★第3グループ/幼児～小学1年生グループ（比較的交流できる児童）

「歌う」では数曲の絵カードから選んでみんなで歌う、「踊る」は歩く、飛ぶ、フラフープで使う、「楽器」は一人ずつハンドベルを持ち簡単な合奏を練習中。ピアノの生演奏も静かに聞いています。

母達の感想

(1) 第2グループ

参加し始めた頃は、見通しがもてずウロウロしていることが多かったのですが、今では、ドロップスでのスケジュールも自分で確認できるようになりました。使い方すら知らなかった太鼓も両手にバチを持って叩けるようになり、自分の好きな曲では自信をもって体を動かしたりしています。

何より驚いたのが、全く言葉の無い息子が、みんなで歌うカラオケの時に、「ん～♪」「あ～♪」と声を出すようになってきたことです。おしゃべりすることも歌を歌うこともできない息子が、みんなの歌声に、ハミングのように声をだして一緒に参加している姿に、感激しました。日によって、調子の悪い時もありますが、親子そろって楽しく参加させていただいています♪



(2) 第3グループ

うちの子は母依存が強いので、昨年度の途中から一人で参加することになりました。ひとり参加の2回が済み、大丈夫かなあと気になりつつ待機していますが、その日の様子をお知らせいただくメールを見て、私がある時よりも参加できてるようで、ホッとしています。それと、ドロップスが終わったあとの帰り道も、ずっと機嫌がよく、「おんがく、またらいしゅう」と、いつも言うので、楽しく過ごせてたんだな～とわかります。イヤだったり、楽しくなかったりだったら、終わったときはふつうでも、ずっと後になって思い出したようにくずれたりしますが、そんなことも全くなく…、かえって一人での参加が自信につながっているようでうれしいです。

ドロップスは、ぴーす会員のみが利用できるグループです。

e-AT（電子情報支援技術）を用いた肢体／知的重複障がい児の余暇活動支援をしています。身体の不自由さを e-AT 利用で補い、人に動かされるのではなく、自分の意志でおもちゃを動かす／音楽を聴くなど様々な活動をしています。

平成18年度は

実施回数：9回（年間延べ参加者数48名）

実施場所：堺市総合福祉会館ブレイルーム

グループ：1グループ

★ある月の報告より

現在は百舌鳥養護・堺養護の学齢期の重複障害のある児童が、おおむね月に一度、水曜日の放課後に活動しています。子供の遊ぶ姿を通して、保護者は支援機器の利用やコミュニケーションの支援について学ぶことができます。

このところ人気の遊びは、改造電動自動車。

メンバーのAくん、Bくんが絶好調で乗り回しています。

そんな中、Cくんはあまり興味がなさそう、遊ばないかな・・・

と思いつつ、ダメもとで・・・と前回電動自動車を借りて家に持ち帰りました。

さてそこから一ヶ月。お家でCくんは、お兄ちゃんが乗っている姿をみて「少し興味を持ったよう」とのこと。

そこで翌月の開催日は、会場をCくん用に工夫。どこで何をするのか一目見てわかるように「おもちゃで遊ぶ場所」と「車の走るところ」をフロアの色でくっきり分け、マットや跳び箱を利用して境目を立体化しました。すると雰囲気は今までとがらりと変わりましたが、自動車の好きなAくんは、戸惑うことなく自動車を楽しむと・・・その姿をCくんはしっかりチェックしていたようです。今はまだ「見ているだけ」のCくんですが、自動車の魅力に気がつき、自分から乗ってみようと思う日まで待ちたいと思います♪



さて、この改造電動自動車！ほんとにおもしろいですよ♪

身体に不自由があり足踏みのアクセルペダルでは乗るのがむずかしい・・・というお子さんでも簡単に乗ることができます。

「その仕組みやいかに？試してみたい！支援機器ってなに？」と思われる方、いらっしやいませ♪

是非、実際に見て体験してみてください。

ふらっしゅはどなたでも見学体験自由にしていただけます。

保護者の感想

- ”ふらっしゅ”に参加してもうすぐ2年になります～。学ぶこと、感心してしまうことが多く、アドバイスをもらったりお説教！？されたりと、目からウロコがぼろり～。普段の生活の場でいかせるようにと思うのですがなかなか難しいです。我が子とはいうと、はまるものがあると集中して楽しく遊んでいます！
- ふらっしゅに入会して初めの頃は電動自動車に乗ったりしていましたが、ここ何回かはTVゲームを楽しんでいます。ゲームの内容が理解できて自分でボタンを押せて遊べたのは初めてだったので一人で遊べる事が嬉しいようです。親もいろんな情報を知ることができてアドバイスもして頂き、教えて頂いたことをいかして、子供に接していきたいと思っています。

ふらっしゅは、ぴーす会員のみが利用できるグループです。

ぱるは障がい児の放課後生活を支援しているグループです。

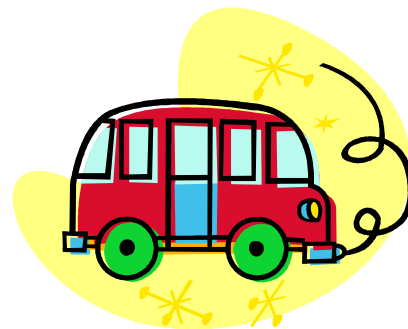
障がいの程度に関わらず年齢らしい暮らしぶりと、

「自己決定・コミュニケーション・地域性」を大切に活動をしています。

具体的な内容は、学校終了後みんなで公共交通機関や徒歩で集団下校をし、活動拠点となる「家」に帰ります。

家では自分のやりたいことを、友達を意識しながら楽しむ...

そんなやわらかな集団活動です。



平成18年度は

実施回数：約240回（年間延べ参加者数2,668名）

実施場所：ぱるの家（中区深井清水町）、ぴーすの家（北区百舌鳥梅町）

実施日：月、火、水（小5～中3のみ）、木（小1～3年のみ）、金（小5～中3のみ）

参加者：小1＝3名、小2＝2名、小3＝3名、小5＝1名、小6＝2名

中1＝7名（内2名は途中退会）、中2＝4名（内1名は途中休会）、中3＝1名

※長期休暇は、午前11時から午後4時まで、活動拠点の家を中心に活動（昼食も）しました。

※行事として、遠足を数回実施（二色浜公園、泉ヶ丘駅前、ダイヤモンドシティ、さりの森、他）

★子ども達の様子（数名を抜粋）

小1のAくん（中度自閉症）

とてもナイーブで、最初の頃は言葉を話すことも少なく、スタッフの横で過ごすことが多かったのですが、最近は少し離れてビデオやゲームで遊ぶ姿があります。困ったことがあるとスタッフの手を引きに来て、手伝ってもらっています。夏休みの外出では、はっきり「いや！」と自分の気持ちを伝えてくれました。

小3のBくん（重度自閉症）

最初は、なかなか落ち着かず「こうえん」と外に行きたがっていました。好きなビデオやプラレールなど楽しめるものが少しずつ増えて、落ち着いて活動が出来るようになりました。最近、選択活動が増え、今は食べるおやつをカードで選ぶことなど取り組んでいます。

小5のCくん（重度自閉症）

この1年、おやつを食べる時やゲームの配線を頼みたい時などに、確実に人を呼ぶ方法や要求を伝える方法を覚え、コミュニケーションに自信が付き、スタッフとの信頼関係もできました。緊張して生活していたように見えた以前に比べると、随分と柔らかい表情で過ごすようになり、スケジュールの交渉や新しいことに挑戦する余裕も見られます。また、本人から積極的に人に関わる姿も見られるようになりました。

小6のDくん（重度自閉症）

1年前はジュースを買いに行く際もなかなかスタッフに声をかけられなかったりしていたが、今は確実に伝えることができるようになりました。課題も集中して取り組める時間が増え、より高度な課題をこなせるようになりました。以前は自由時間に何をしたいかわからず困っている様子がありましたが、今ではビデオを見たり絵を描いたり遊びのバリエーションも増えてきました。

中1のEくん（重度ダウン症）

6月から週に2回参加しています。すぐにスケジュールを理解して、自分で考えて組み立てるようになっていました。初めは自分から周りに働きかけることは少なかったのですが、ゲームの順番待ちや、紅茶を入れる仕事をしてもらううちに徐々に自分から他の子やスタッフに呼びかけることが増えました。

中1のFちゃん（重度精神発達地帯、身体障害者手帳2球）

この1年間は中学生としていろいろなことにチャレンジしました。バスも今まではスタ



ッが一括で支払いを済ませていましたが、自分で手帳を見せ支払いを行えるようになりました。ほかには、階段ふきのお仕事への自覚ができました。最初は、スタッフにするように促されてやる、気が向いたときはするといった感じでしたが、スタッフに声をかけられなくても自分から進んで毎日行うようになりました。今では、階段ふきのお仕事と洗濯干しとたたむお仕事も欠かさずしてくれています。

中2のGくん（重度ソトス症候群）

1年半くらい前からばるから家までの30分の道のりを一人で帰宅する練習を行い、今年はじめより完全に一人帰宅が出来るようになりました。バスも今まではスタッフが一括で支払いを済ませていましたが、自分で手帳を見せ支払いを行えるようになりました。

中2のHちゃん（重度自閉症）

以前からスケジュールの意味も時間も理解していましたが、予定の時間が過ぎてしまうとどうしていいかわからず困っていました。しかし、今では困ることもなく自信と余裕を持って過ごしています。また、他の子の真似をしてみたり、スタッフの名前を覚えて呼んだり、スタッフを気遣ってみたりと、人に対する意識が随分高まったように思います。一人で過ごす時間も、音楽を聴く以外にもゲームボーイやファミコンに自分から挑戦し余暇の過ごし方の幅が広がりました。

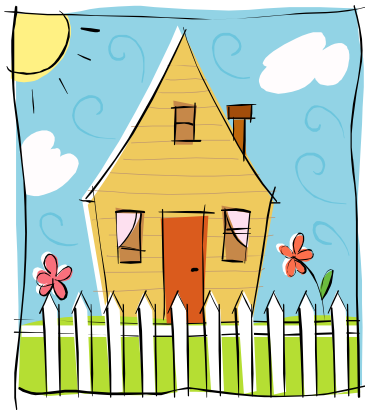
★保護者の感想（抜粋）

小2の男児保護者

小学校入学と同時に放課後はのびのびルームを利用していましたが、3日に1度は問題を起こす様な毎日でした。そんな時低学年ばるがスタートすると聞き、早速週3日のコースに申し込みました。親の方はまたここでも荒れるのではないかとドキドキのスタートでしたが、わかりやすいスケジュールのお蔭で混乱する事なく楽しく通えています。スケジュールを見て、自主的に課題の取組みに別の部屋に行ったのを見たときには感動しました。ばるの家に通い出してから、不思議な事にのびのびでも落ち着いて過ごせる様になりました。

小6の男児保護者

息子にとって「ばる」は第2の家になっています。小さい頃から場所見知りかひどい子どもだったので、初めは心配でしたが、二年目にもなるととても落ち着いて参加しています。今では、スケジュールに「ばる」がスムーズに入っています。初めからこうはうまくいきませんでした。「ばる拒否」も半年ありました。親の私は、どうしたらいいかわからない時は、スタッフに相談する事もしょっちゅうあります。我が家にとって「ばる」とは、親では発見できにくい事を引き出してくれ、一人一人に応じた課題や生活していく上でのノウハウを家族と一緒に実行していく事で、子どもの自信につなげてくれる所だと思います。これからもゆっくりじっくりばるスタッフやお友だちと一緒に刺激し合いながら楽しく参加してくれると思います。



中2の男児保護者

この1年・・・バス代・電車代が自分で払えるようになりました。ばるからの帰路40分弱、1人で帰れるようになりました。スタッフの方が根気良く、道順・信号の見方等教えて下さったので出来るようになったものです。親の私とずっと一緒だったら絶対させていなかったと思います。1人で出来ることが増えると本人の自信にもなり、本当に感謝しています。その他にも本人の出来そうなことを考えてくれて、挑戦させてくれているばるでの活動・・・1人じゃない！友だちと一緒に・競い合う（？）ってところも刺激になっているようです。充実したばる活動を楽しんでいます。

ばるは、びーす会員以外でも利用できるグループです。

スマイル・シックスは、小学3・4年生のダウン症の6人グループです。月に1回、土曜日に集まり、ボランティアさんと共に、外出・買い物・工作・楽器遊びなどをして、友達や人との関わりを大切にしながら、色々な経験を通じて学んでいるところです。活動を開始して一年余り、子ども達は身体も大きくなり言葉も少し増え、目には見えない所でも成長しているよう。まだまだ手探り状態ですが、あせらずこれからも楽しい活動を続けて行きたいと思います。

平成18年度は

実施回数：15回（年間延べ参加者数97名）

実施場所：堺市総合福祉会館プレイルーム

活動内容：ビッグバン、長居スポーツセンターなどへの外出や、福祉会館プレイルームや青少年の家で音楽活動をしました。障害児の兄弟同士の交流や家族間の親睦をはかるため、秋にはファミリーデーとして『ハーベストの丘』に行ってきました。

■ 情報提供 ■

ピーすは、障がい児やその家族の暮らしに役立つ情報を、メール(パソコンや携帯)などを利用して提供しています。平成18年度に提供した情報は以下の通りです。

1:メールニュース『ふぁにぃ』

月曜～金曜までの毎日、携帯やパソコンへのメールニュースを、会員向けに配信しているものです。

平成18年度は

配信回数：325件（22～33件/月）

配信内容：堺市やその近辺で実施される講演会やセミナーなどの紹介、
 ファインプラザやアミティ舞洲などで開催されるスポーツ教室や絵画教室の情報、
 堺市内で実施される映画会やコンサート・イベントの案内、
 映画やテレビ番組の紹介、
 障害児関係の書籍やホームページの紹介、
 障害児が利用する支援グッズなどの紹介、
 障害割引のあるものの紹介
 障害者自立支援法の児童に関する内容の説明、
 障害児関係の内容が掲載された新聞記事の紹介
 堺市内の障害児団体やサークルの活動紹介 など



2:ピーすのメールマガジン

毎月末にパソコンで配信している会員向けメールマガジン（一部の方にはFAXや郵送）です。

平成18年度は

配信回数：12本

配信内容：一ヶ月のピーすの活動報告、翌月以降のピーすが取り組む活動の情報、余暇活動グループのようす、お勧め書籍やグッズの紹介、スタッフコラム（スタッフの子育て日記のようなもの）

3:プリズム通信

発達障害を啓発するチーム プリズムのチームメートに向け配信されている通信。おおむね月1回程度。

平成18年度は

配信回数：13本

配信内容：プリズム活動の報告や、堺市内の発達障害関係の情報、新聞記事などを配信

ぴーすは、障がい支援に関するセミナーや勉強会を企画制作しています。また障がいを広く啓発するためのプロジェクトを継続実施しており、平成18年度の活動は以下の通りとなりました。

1: 幼児知的障害児の母親対象『連続勉強会』

我が子の障がいに気づいて間がない幼児期のお母さん達を対象に、少し先輩の小学生母親が講師役をつとめ、体験談・失敗談を交えつつ、共感・励ましを伝え、生活の工夫・親の心構えを紹介することにより、少しでも早く、我が子への愛情・子育ての楽しさ・将来への明るい希望を取り戻してもらうことを目的に実施している勉強会です。

平成18年度は

1	5月30日(火) 福祉会館 第3会議室 77名参加	子育ての悩み・・・(講師母の体験談あれこれ～) ～先輩のお母さんのしんどかった幼児期のこと～今の子ども様子ビデオつき！ ・参加者に子育ての悩みをかいでもらう項目別アンケート配布(回収6月) ・お昼から参加者同士の交流を目的としてグループトークを開催。
2	6月30日(金) 福祉会館 第2会議室 67名参加	これってなあに？(自閉症・染色体異常・発達遅滞・・・) ～障害特性と感覚について～ ・こどもの不思議な行動や様子についてて手がかりを知る。
3	7月11日(火) 福祉会館 大研修室 98名参加	ちょっと先のことだけ～(保育所・幼稚園・学校・放課後・・・) ～ちょっと先のことだけ～ ・養護学校と養護学級のちがいや保育所や幼稚園情報など少しだけ先の進路を考えるてがかりをお話
4	9月8日(金) 福祉会館 第2研修室 86名参加	知らなきヤソンする・・・堺市の福祉制度について～ ～ショートステイ？ガイドヘルパーって？～ ・堺市における福祉制度について「ぴーすの支援センター」より松本尚子コーディネーターをお迎えしてお話をしてもらう
5	10月31日(火) 福祉会館 大研修室 66名参加	気になる行動・・・パニック・多動・自傷・こだわり etc ～パニックや自分をたたいたり、かんだりすることについて～ ・障害特性と行動、パニックや自傷他傷などに対する母親の心構えについて
6	11月21日(火) ソフィア堺 第1・2研修室 112名参加	やりとりを楽しむために・・・(坂井聡先生講演会) ・堺市手をつなぐ育成会との共催で、香川大学教育学部障害児教育コース助教授 坂井 聡先生をお迎えして講演していただく。
7	12月20日(水) 福祉会館 大研修室 58名参加	ことばとコミュニケーション～ことばってどうすれば出るの？～ ・いわゆる発語にこだわらず機能的なコミュニケーションを大切さにすること また、こどもが主人公となるような暮らしの大切さについて ・1月の具体的支援についての参加者モデルを選定
8	1月12日(金) 福祉会館 大研修室 48名参加	具体的支援について～参加者からの報告～参加者のモデルケースから学んでみよう。～ ・3名の受講者の子どもへの支援をぴーすの支援センターと協力し実施する。 ・受講者の方から今回の支援から感じたことを報告してもらう。 ・他の受講者はモデルケースから障害特性に応じた支援について学ぶ機会とする。
9	2月27日(火) 福祉会館	障害児のいる家族 特別講師 大阪府立泉北養護学校教諭/ぴーす監事 中村陽子

	大研修室 64名参加	・障害児の兄弟や姉妹、祖父母、地域などの付き合い方や自分の事について
--	---------------	------------------------------------

★参加者の感想より抜粋

第1回 「子育ての悩み・・・(講師母の体験談あれこれ～)」感想

- ・自分の子どもより少し上の子の成長の様子を聞けて、とても参考になりました。先輩お母さんの体験談、「うん！うん！」と納得して聞けました。公園デビューの話も、「私もそうだったなあ～」と思い、うれしかったです。ドクターの話よりも参考になりました。

第2回 「これってなあに？(自閉症・染色体異常・発達遅滞・・・)」感想

- ・今日のお話を聞いて、「あ！これうちの子だわ。」「あ！これって〇〇くんやん。」など思い当たるところがたくさんあり、すごくわかりやすかったです。ビデオを見せて頂いて、「うちの子も小学校に行ったらあんな事出来るようになるんやろうなあ～」と想像し、「今日からまた頑張ろう！！」という気分になりました

第3回 「ちょっと先のことだけ～(保育所・幼稚園・学校・放課後・・・)」感想

- ・うちはまだ年中ですが、来年の今頃のことを思うと、とても心配でした。今日詳しく就学のことを聞かせてもらい、色々と分かり、少し気持ちが楽になりました。しっかりと見学し、子どもにも体験させて進路を決めたいと思いました。

第4回 「知らなきヤソンする・・・堺市の福祉制度について～」感想

- ・堺市で使える福祉制度について詳しく教えていただき、大変勉強になりました。まだ、手帳の申請もしていない状態でしたが、申請に向けて前向きに考えていこうと思います。

第5回 「気になる行動・・・パニック・多動・自傷・こだわり etc」感想

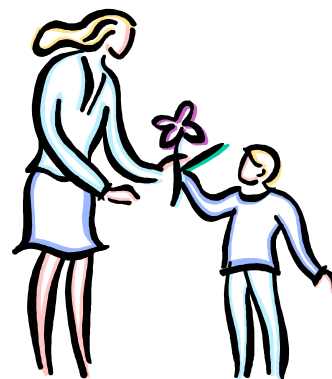
- ・困った行動も視点を形を変えていい行動となるようにしてあげれば、親も子もストレスなくやっていけるんだな～と感心しました。パニックや自傷、他傷などは、自分の気持が伝えることができるようになると少なくなるとの事なので、伝えられる方法を見つけてあげたいと思います。なにがイヤなのか、子どもの視点で考えることが大切なんですね！

第6回 「やりとりを楽しむために・・・(坂井聡先生講演会)」感想

- ・アイデア盛だくさんで、これからいろいろ試してみたいと思いました。
- ・楽しい講演会で、わかりやすく大変よかったです！

第7回 「ことばとコミュニケーション」感想

- ・うちの子には具体物+声かけで取り組んでいるのですが、今日の勉強会で家での信頼関係、気持が伝わる相手がいる安心感を大切に育てて・・・ということがよくわかりました。言葉は出なくても蓄積されていく！親としては正直早く言葉が出てほしいと思うのですが、生活のあらゆる面で「伝わるんだ」という気持ちを育てていけるように、私も勉強していきたいです。



第8回 「具体的支援について～参加者からの報告～」感想

- ・3人の方の実践報告はとても勉強になりました。自分の悩みと重なることもあり、今後子供と接するとき今日の話を参考にさせてもらいたいと思います。この子はこうだから！と思い込みで見めるのではなく、しっかり観察してみたいと思います。

第9回 「障害児のいる家族」感想

- ・先輩ママさん達の経験、家族のありがたがいっぱい聞けてよかったです。子どもが楽しく自分らしくいられるよう、家族が自分のしたいことを少しでも出来る時間を大切にして、家族みんなが笑顔で過ごしたいです。今年度、初めて連続勉強会を受けてみて、いろんな話が聞けて楽しかったです。心強い先輩ママさん、ありがとうございました。みんなが自分らしく過ごせるよう楽しみたいです。

ピーすでは、障がい児の母達が、大きな講演会などよりも踏み込んだ、より内容の濃い勉強を行なうため、昨年度より実施を開始したセミナーです。少人数であることが和気あいあいと話しやすいムードを作り出し好評を得ました。また個々に応じた勉強になることもその後の暮らしぶりに役立ったとの感想をもらっています。

平成18年度は

実施回数：20回

実施内容：製作会「サポートブックを作ろう！」

「子どもを紹介するプリントを作ろう！」

「スケジュールボードカートを作ろう！」

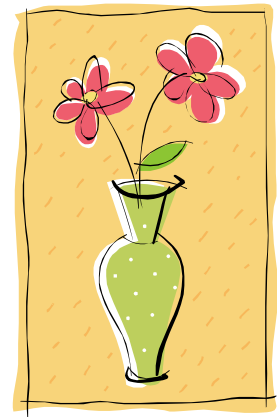
「お風呂や学校準備の手順書を作ろう！」

セミナー「構造化を学ぼう」

「困った行動についての対応」

座談会「知的障がい児のしつけについて」

「障がい児の性教育について」



★参加者の感想

「サポートブックを作ろう」に参加しての感想

一度作って見たかったサポートブック。いざ書こうとしても、ナニを書いてよいのやら…そんな時に製作会をしていただけると聞き、参加しました。気がつけば、子どものことを“お願いする”内容になりがちで、少し難しかったけれど、アドバイスにより『誰に渡したいか?』を絞ることで書きやすくなりました。出来上がりを早速ヘルパーさんに読んでもらったところ、『いつも接していて、分かっているつもりでも、改めてそうなんやあ…と再確認できますね』と、喜んでもらえました。私自身も、子どものことを客観的に、見つめなおすよい機会になりました。完成できてとても嬉しいです！「小さなセミナー」というだけあって、少人数で教えていただき、気軽に質問などもさせていただいて、本当に良かったです。また、このような機会があれば、参加させていただきたいです。

「子ども紹介プリントを作ろう」に参加しての感想

子ども紹介プリントをつくりたいな~と思っていたタイミングにこの機会に恵まれました。限られた紙面の中で見てくれる人にわかりやすく、確実に伝えるというのは、一人で考えるには難しかったところで相談しながら、手直ししながら、予想以上のものができてうれしかったし参加してよかったです。ありがとうございました。

「構造化を学ぼう」に参加しての感想

家族が過ごしやすくするために、空間の構造化について、家族皆で考えていきたいと思いました。ついつい親の勝手に物を置いてたけど、これからは子どもの見てる所で、様子をみながら変えるようにしたいです。なんとなくしていた事も、意味を考えて、改めて家の中を模様替えしたいなと思いました。

「知的障がい児のしつけについて」に参加しての感想

いろいろ話を聞いて“障害があるから、ないから・・・では無くて、普通の感覚で伝えればいいんやって思いました。私の方がハンデにこだわりすぎてむずかしく考えてしまっているな~と反省。ハンデ+αはあるけれど、その辺も見つめなおそうと思いました。

「障がい児の性教育について」に参加しての感想

自分が今“性”に関してまったく取り組んでいないというか、考えていなかったことが、まず理解できました。男の子の気持ちや体のことはまったく見当がつかないので、つい後回しにしてしまい、自分の目に触れなければOK、と勝手に思い込んでいたので、今回参加させてもらい、“性”に関して親の私が目が覚めさせていただく良い機会になりました。

ぴーすは、障がい児のことを一般社会に正しく理解してもらうための啓発活動に取り組んでいます。平成18年度の活動は以下の通りとなりました。

1:発達障がい啓発チーム プリズム

発達障がい啓発チーム プリズムは、とかく誤解の多い発達障害を「当事者を中心に、一人一人力を合わせ、草の根で啓発しよう」というプロジェクトを継続して実施しています。そのため無料会員によるチームを結成し、啓発印刷物の配布や講演会のPRに協力をしてもらっています。

平成18年度は

プリズムチーム会員数：144名

★18年度のプロジェクトは「大阪府福祉基金地域福祉振興助成金」の地域福祉推進助成／府が選定するテーマ等にかかる事業「テーマ：発達障害の理解や社会促進に向けたモデルとなる事業」選ばれ、その中で以下の講演会を実施しました。

- ・内容：奥平綾子氏、大西俊介氏講演会
- ・配布物：ポスター、冊子3冊

・講演会 A 日時：H19.1/22(月) 場所：たかいし市民文化会館アプラホール 参加人数：137名

B 日時：H19.2/1(木) 場所：大阪狭山市民文化会館 SAYAKA ホール 参加人数：116名

C 日時 H19.2/11(日) 場所：クレオ大阪南（大阪市立男女共同参画センター）参加人数：220名

D 日時：H19.3/12(月) 場所：じばしん南大阪イベントホール（堺市） 参加人数：259名

合計参加人数 732名

- ・参加者の感想：(1)発達障害の正しい理解ってとても大事だと強く感じました。そしていかに周りの大人がどう関わるかの支援がとても大切で、その具体的な話を聞けてよかったです。
- (2)保育士の私は実際にどの子ども達にもものびのびすくすく育てて欲しいために、今日聞いたことを今後実践していきたいと思います。
- (3)前回もらった冊子やポスターを、小学校の先生に渡しました。すぐに先生達で発達障害のことについて話し合ってくれたそうです。養護学級担任から「すごくわかりやすかったので資料として使わせてもらいました」という返事をもらいました。今日の話もまた学校の先生にうまく伝えられたらと思います。

・成果物（印刷物）

啓発ポスター

発達障害という言葉すらよく知らない方に向けた簡単な説明をしたポスター



プリズム冊子（2）

発達障がい児の家族に取材し、実際に行なっている「家の工夫」をまとめた一冊



プリズム冊子（1）

発達障害とは何か？その支援方法は？ということ詳しく説明した一冊

堺市内の小学校／養護学校の先生が執筆



プリズム冊子（3）

発達障がい児の家族に取材し、実際に行なっている「コミュニケーションの工夫」をまとめた一冊



冊子はいずれも 100 円で有料配布中

今まであまり取り上げられなかった「障がい児の防災」をテーマに、一般市民に向け「障がい児という災害時要援護者の存在」についての啓発をしようという活動です。

平成18年度は

堺市「堺の魅力づくり」市民自主事業の選考審査第一位団体として選ばれ、実施しました。

・ 内容1：成果物

災害時要援護者が「いざという時、自ら命を守る（自助）のため」自分が災害時要援護者であることなど、どのような援護が必要かを記入する防災手帳やワッペン、キーホルダーを製作しました。

手帳＝「聴覚障害者や軽度の知的障害者」など
 平時なら手話や簡単な会話などでコミュニケーションがとれるけれど、いきなりの発災時には自らの正しい情報（援護するために必要な内容）を口頭で伝えづらい人達が、そういう場合に、手帳を示すことで正しく援護情報を伝えることができる。 200円で有料配布中



ワッペン＝「重度の認知症や重度知的障害児」など外見からは援護が必要であることがわかりづらいが、平時からコミュニケーションが正確にとりづらく、発災時に「助けて欲しい」の意志さえ伝えづらい人達が、ワッペンをつけることで援護が必要であると周囲の人達に知らしめることができる。300円で有料配布中



キーホルダー＝ワッペンが必要だが、かっこよい物がよいと希望する青年期の知的障害児や成人知的障害者向けの物で、かばんなどに装着し、かっこよく要援護者であることを伝えられる。
 1, 500円で受注生産中
 啓発カラーチラシ（最終ページ）



・ 内容2：展示会

3月12日（月）11:00～16:00 じばしん南大阪にて、以下の内容の防災展示会を実施。

- (1) パネル展示：堺市総務局危機管理室の協力で堺市の基本的防災についてのパネル展示とともに、ピース独自の「障害児家族の防災」についてのパネルを展示。
- (2) 防災グッズ展示：防災に必要なグッズ＝持ち出し袋、備蓄品、家具転倒防止するための物などの他に、障害児ならではの特別なグッズ＝感覚をいやす物や寝転べるテント、簡易トイレなど
- (3) 試食：災害用保存食を実際に試食コーナーを設置
- (4) 防災手帳、ワッペン、キーホルダーの有料配布

展示会は、全体で約300名の参加。

障害児の保護者を始め、福祉関係者、防災関係者、民生委員、区役所職員など、幅広い参加となりました。

ぴーすは、相談事業として堺市の委託(堺市障害者(児)生活支援事業)と大阪府の指定(相談支援事業)として事業所:ぴーすの支援センターにおいて相談事業等を実施しています。また平成18年度は大阪府指定の居宅介護支援事業=ぴーすのヘルパーステーションも開設しました。合わせて、平成18年度の活動は以下の通りとなりました。

1:ぴーすの支援センター(障害者生活支援センター)

相談実人数：143名(内、約80%は児童の相談)

相談延べ件数：811回(内、約90%は、知的または発達障害の相談)

相談内容：自立支援法関係の相談(居宅介護支給量の計画や使い方など)	90件
既存の事業所やサークルの紹介、支援機器利用や余暇情報の提供	151件
問題行動への対応方法や障害の理解を含む生活全般の相談	316件
行政などの専門機関の紹介	29件
障害児母親のピアカウンセリング	31件
その他(学校などについて等)	146件

18年度も幼児～学齢期の相談が圧倒数を占めました。17年度は百舌鳥養護の保護者からの相談が多く、学校の対応についての相談などが目立ちましたが、18年度は、地域小中学校に通う児童の相談件数が増え、特に軽度発達障害児の学校の無理解、友人との関わり方、子どもの不登校、地域への関わり、しつけなどの相談が多かったです。

又、成人期の相談も少しずつではあるが増えてきています。

2:ぴーすのヘルパーステーション(障害者居宅介護支援事業所)

平成18年6月に開設をしました。ぴーすの特徴から児童の利用がほとんどを占めています。

特に目立ったPRは行ないませんが、ぴーす会員からその友人へ・・・という形で、契約利用者は月ごとに増加しました。年度末には35名の契約となりました。

利用内容は、児童という事で、土日の外出支援や放課後の家庭での見守りや散歩などになっています。

また10月からは、育児支援ヘルパー派遣事業の事業所指定を受け、2名の利用がありました。

現在の課題は、利用者の契約はスムーズに増加の一途をたどっていますが、それに応えるためのヘルパー人材は不足しているので、現在31名である登録人数を増やすとともに、研修等にも力を入れて行こうと思っています。

平成18年度の研修は

- 8月 さまざまな障害の特性について
- 9月 社会福祉の歴史、障害観について(1)
- 10月 自閉症の障害特性と上手なおつきあいについて
- 11月 社会福祉の歴史、障害観について(2)
- 12月 行動障害の理解と対応
- 1月 社会福祉の歴史、障害観について(3)
- 2月 支援者としての「家族とのつきあい方」
- 3月 社会福祉の歴史、障害観について(4)



- 4月18日 毎日新聞に「障がい児のための防災を考えるプロジェクト」が紹介される（別紙参照）
-
- 5月24日 チャリティディナーショーIN 堺に招待され、おもちゃ等の寄贈を受ける
-
- 6月 全日本手をつなぐ育成会発行の情報・交流誌「手をつなぐ」の『元気な活動紹介します～降っても晴れても』で団体紹介が掲載される
- 6月 全日本手をつなぐ育成会のホームページにあるインターネットTV『未来地図』にびーす理事長親子の生活が放映される（現在も見ることが出来ます <http://www1.odn.ne.jp/ikuseikai/>）
-
- 6月12日 読売新聞に「障がい児のための防災を考えるプロジェクト」が紹介される（別紙参照）
-
- 7月 1日 第23回市民防災研修会（東京にて）に、講演講師を派遣する
- 7月27日 堺市における発達障害児（者）への支援を考える研究会の発足記念シンポジウムにパネラーを派遣する
- 7月30日 書籍『高齢者・障害者の災害時の避難支援のポイント』（編著：災害時要援護者避難支援研究会、出版：株式会社ぎょうせい）のびーすの防災アンケート調査や新聞記事掲載などが紹介される。
-
- 8月11日 NHK第1ラジオより「ラジオあさいちばん」（全国放送）の「時の話題のコーナー」にて「障がい児のための防災を考えるプロジェクト」が紹介される
- 8月29日 NHK第1ラジオ「関西ラジオワイド」（関西一円）で「障がい児のための防災を考えるプロジェクト」が紹介される
- 8月29日 日本経済新聞にて「障がい児のための防災を考えるプロジェクト」が紹介される（別紙参照）
-
- 9月 内閣府の「防災についてのヒアリング調査」を受ける
→内閣府が3月に発行した『災害時要援護者対策の進め方について』にてびーすの防災の取り組みや堺市との連携などについて紹介される
- 9月より 堺市における発達障害児（者）への支援を考える研究会に研究委員を派遣する（11月まで）
-
- 10月28日 さかいボランティア市民活動フェスティバルに展示参加する
-
- 11月 6日 めだか親子教室に、先輩母の体験談の講師を派遣
- 11月15日 大阪市浪速区の浪速青少年会館&浪速区社会福祉協議会&なにわ区おもちゃ図書館「えんじえる」共催（子育て支援のボランティアさん向け）「障害児の余暇活動を支援するには」に講師を派遣する
- 11月20日 めだか親子教室に、先輩母の体験談の講師を派遣
-
- 12月 9日 近畿障害児教育臨床研究会に「地域で生きる障害児家族になるために～家族にとって必要な「力」と「支援」」に講師を派遣する
- 12月14日 大阪市立中央図書館主催「誰もが楽しいおはなし会～障害がある子もない子も、みんないっしょに楽しむ」に講師を派遣する
-
- 1月より 堺市発達障害者施策推進懇話会に委員を派遣する（3月まで）
- 1月より 堺市成年後見制度PR用「Q&A集」作成会議にメンバーを派遣する（3月まで）
-
- 2月21日 大阪府立堺聾学校PTA主催「障害のある子に必要な防災とは」に講師を派遣する
- 2月28日 堺市主催「地域福祉セミナー」に講師を派遣する
-
- 3月 『ばどマガ南大阪版』の中の「ステキに輝くご近所さん」で、びーすの活動が紹介される
- 3月 4日 堺市主催「フォーラムIN さかい」にコーディネーターを派遣する
- 3月 4日 大阪府養護教育研究部主催「自閉症プロジェクトシンポジウム」にシンポジストを派遣する
- 3月13日 毎日新聞に「防災手帳／ワッペン」や展示会について掲載される（別紙参照）

ただいま募集中！

ぴーす利用会員 ・ぴーすのメールマガジン（月1回）が届きます。
・メールニュースふぁにい（毎週月～金）が届きます。
・ぴーす支援の余暇活動（びっぴ、ドロップスなど）への参加ができます。
入会費 1,000円 月会費 400円

ぴーす賛助会員 ・ぴーすのメールマガジン（月1回）が届きます。
・年間報告書が届きます。
会費一口 1,000円（年間）※何口でもOK

ぴーすのヘルパーステーション

登録ホームヘルパー、ガイドヘルパー

仕事内容：主に、児童の外出支援や家での見守り

時間帯：平日の昼間～夕方や土日祝日

特に水曜日 14:00～18:00、土曜日 11:00～17:00

活動可能な方、急募しています！

週1回、月1回でも大歓迎です。

詳しくは、ぴーす なかもず事務所までお問合せください。

特定非営利活動（NPO）法人 ぴーす

堺市北区百舌鳥梅町3丁39-18

電話 072-250-9060

FAX 072-250-9061

文責：小田多佳子（理事長）